












週間市場レポート (2023年2月13日~2月17日)

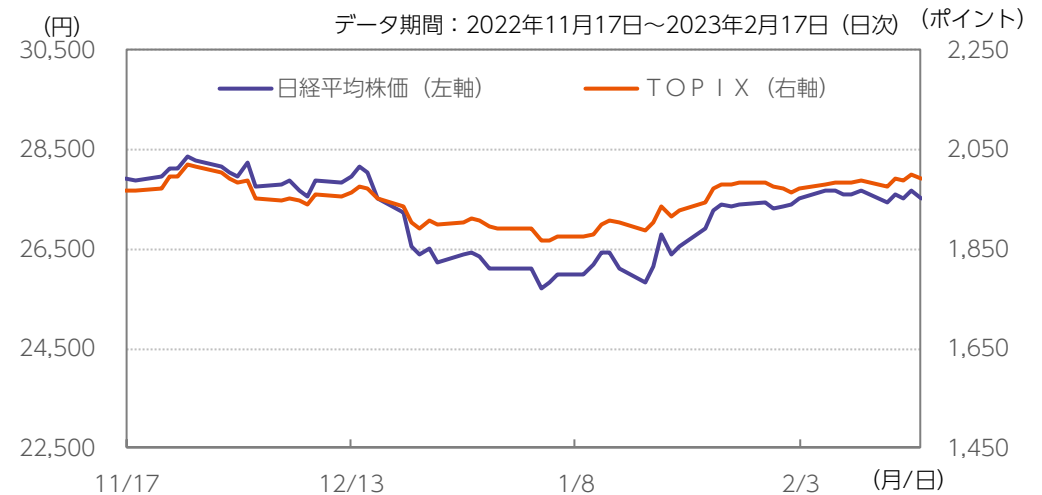
1) 先週の市場動向

指数名	国	前週末 2023/2/10	先週末 2023/2/17	前週末比 (%)
日経平均株価 (円)		27,670.98	27,513.13	▲ 0.57 ↓
TOPIX (東証株価指数)		1,986.96	1,991.93	0.25 ↑
ダウ工業株30種平均 (ドル)		33,869.27	33,826.69	▲ 0.13 ↓
S&P500種指数		4,090.46	4,079.09	▲ 0.28 ↓
ナスダック総合指数		11,718.12	11,787.27	0.59 ↑
ユーロ・ストックス50指数		4,197.94	4,274.92	1.83 ↑
S&P/ASX300指数		7,395.88	7,307.94	▲ 1.19 ↓
上海総合指数		3,260.67	3,224.02	▲ 1.12 ↓
MSCI AC アジア (除く日本)*		848.02	835.90	▲ 1.43 ↓
東証REIT指数		1,823.84	1,825.42	0.09 ↑
FTSE NAREIT All-Equity REIT 指数		771.60	763.35	▲ 1.07 ↓
ASX300 REIT 指数		1,438.70	1,455.10	1.14 ↑
グローバルREIT (除く日本)*		184.32	183.10	▲ 0.66 ↓
日本10年国債 (%)		0.502	0.507	0.005 ↑
米国10年国債 (%)		3.732	3.815	0.083 ↑
ドイツ10年国債 (%)		2.364	2.440	0.076 ↑
英国10年国債 (%)		3.396	3.515	0.119 ↑
ドル/円		131.36	134.15	2.12 ↑
ユーロ/円		140.39	143.27	2.05 ↑
英ポンド/円		158.51	161.49	1.88 ↑
豪ドル/円		90.91	92.28	1.51 ↑
フィラデルフィア半導体指数		3,011.15	3,005.87	▲ 0.18 ↓
WTI原油先物 (ドル)		79.72	76.34	▲ 4.24 ↓
CRB指数		272.67	267.57	▲ 1.87 ↓

2) 日本の株式・債券市場

≪ 株式 ≫

日本株式市場 (日経平均株価) は、前週末比で小幅に下落しました。1月の米雇用統計を受け、米連邦準備制度理事会 (FRB) の早期利上げ停止観測が後退するなか、先週発表された1月の米消費者物価指数 (CPI) や米生産者物価指数 (PPI) の伸びが市場予想を上回ったことから、インフレの高止まりが意識され、米金融引き締め長期化観測を嫌気する売りが優勢となりました。一方、日米金利差拡大により外国為替市場で円安米ドル高が進行しており、輸出採算が改善するとの期待から自動車などの輸出関連株を中心に買われ、上昇する場面もありました。



出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成
 ※現地通貨ベース * ▲はマイナスを表します。

≪ 債券 ≫

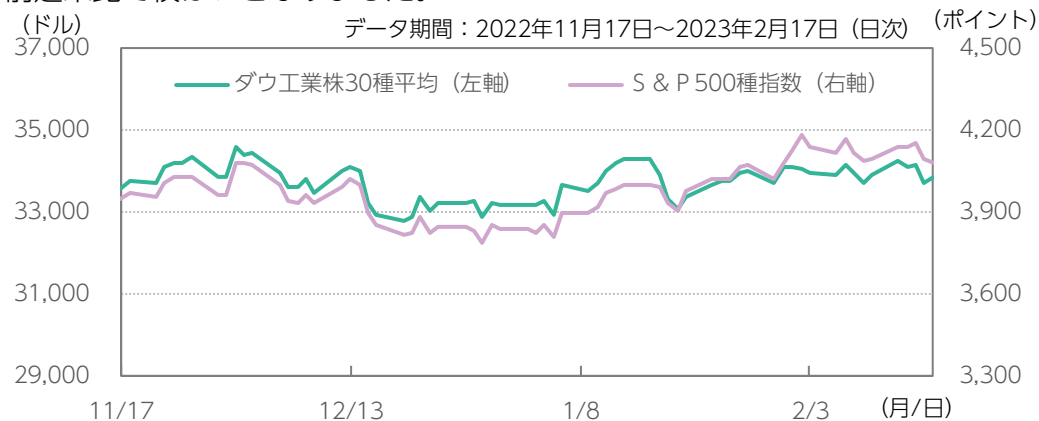
日本債券市場（10年国債金利）は、前週末比で横ばいとなりました。新総裁のもとでの日銀の政策修正への思惑がくすぶる中、前週末に米長期金利が上昇したことを受け、週初は上昇しました。一方、日銀は5年物の共通担保資金供給オペや連続指値オペの実施により、長期金利の上昇を抑えており、週を通じて日銀が許容する長期金利の変動幅の上限である+0.5%近辺での推移となりました。



3) 米国の株式市場

≪ 株式 ≫

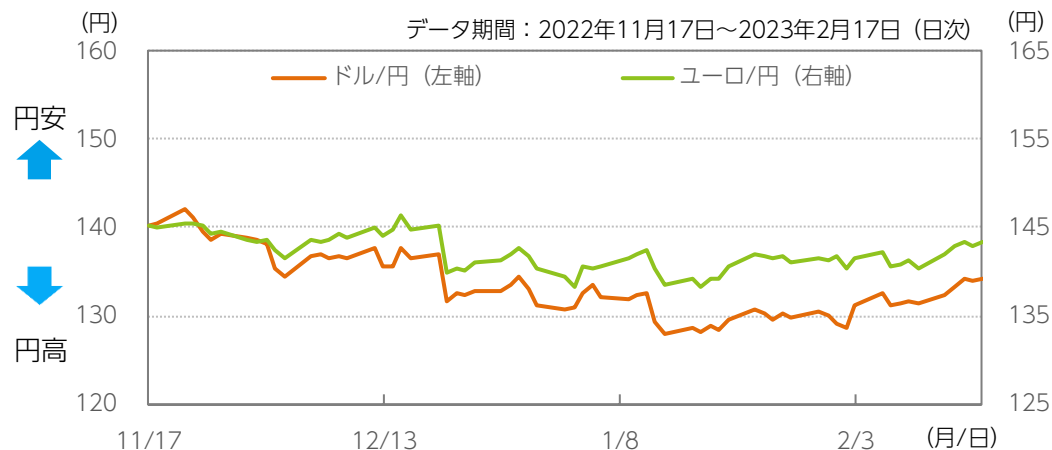
米国株式市場（NYダウ）は、前週末比で横ばいとなりました。1月の米CPIでインフレの鈍化が示されるとの期待から、週初は金利上昇時に割高感が意識されやすいハイテク株を中心に買われました。1月の米CPIや米PPIが市場予想を上回ったことから、インフレの高止まりとFRBによる早期の利上げ停止観測が後退すると、週末にかけて売りが優勢となり、週間では前週末比で横ばいとなりました。



出所）ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成

4) 外国為替市場

米ドル/円相場は、前週末比で円安米ドル高となりました。1月の米CPIの伸びが市場予想以上に上昇したことや、1月の米小売売上高が市場予想を大幅に上回ったことを受け、FRBが金融引き締めを継続するとの観測が強まり、日米金利差拡大を意識した円売り米ドル買いが進みました。



5) 今週の見通しについて

1月の米雇用統計に続き、1月の米小売売上高が市場予想を大幅に上回るなど、米経済の堅調さを示す米経済指標の発表が続き、FRB高官のタカ派（金融引き締め推進派）的な発言が相次いでいます。

14日（火）に米労働省が発表した1月のCPIは前年同月比+6.4%と2022年12月（同+6.5%）から低下したものの、市場予想（同+6.2%）を上回りました。FRBの目標を大きく上回るインフレ率などを背景に、パウエルFRB議長は2月の米連邦公開市場委員会（FOMC）後の記者会見で「インフレを抑制するには、継続的な利上げが適切」と発言しているほか、足もとでは一部のFRB高官から、3月のFOMCで0.5%の利上げを支持する姿勢が示されています。

今週は22日（水）に1月FOMCの議事要旨が公開されることから、週央までは様子見ムードが高まりそうです。FRB高官の発言から、議事要旨はタカ派的な内容となることが予想されますが、市場の予想ほどタカ派的な内容ではないと受け止められれば、FRBの金融引き締め姿勢が緩和するとの期待から株式市場は上昇する可能性もありそうです。なお、24日（金）の衆議院議院運営委員会の理事会で行われる、日銀新総裁候補、植田和男氏の所信聴取にも注目が集まりそうです。

【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506

9：00～17：00（土日祝日・年末年始を除く）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>